

令和7年度 第1回地下水採取審査委員会

議事録

1 日 時 令和7年5月19日（月）14:00～16:00

2 場 所 座間市役所

3 出席者 委 員 守田委員長、中島副委員長、宮下委員、大木委員
事務局 くらし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主事

4 公開の可否 ☒公開 ☐一部公開 ☐非公開

5 傍聴者 1名

6 議 題

（1）座間市地下水保全基本計画改定業務委託について

（2）有機フッ素化合物分析について

（3）その他

7 配布資料

資料1 出席者名簿

資料2 令和7年度 第1回 地下水採取審査委員会 資料 -令和6年度実施内容の概要及び令和7年度実施方針（案）-

資料3 座間市地下水保全基本計画（素案）

資料4 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析委託 調査計画案

資料5 市内分布結果表

資料6 座間市住居表示等実施区域図（令和2年2月3日）

資料7 市内分布結果図

8 議 事

（1）座間市地下水保全基本計画改定業務委託について

①事務局説明

事務局 今年度行う座間市地下水保全基本計画の改定作業についてのご報告です。なお、報告は当該事業の委託事業者から説明をします。何か質問があれば、よろしくお願いします。

②質疑応答

宮下委員 基本計画書が約100ページとあるので、資料編が充実したものになると推定します。改訂版では資料編にどのような内容を入れるのか、事前に示してもらえるとよいです。

事務局 素案作成にあたり、第2回委員会の事前に相談させていただきます。ご意見をお願いしたいです。

中島委員 P16 有機フッ素化合物の管理にあたり、上部の礫層と下部の礫層をまとめて1つの帯水層として扱ってよいのでしょうか。水の動き方を踏まえて、帯水層を検討していただきたいです。

事務局 ストレーナー深度など把握できる情報をもとに考察します。帯水層別の地下

	水コンターの作成は難しいですが、可能であれば計画書中にコラム等で紹介する形としたいです。
中島委員	有効設置率について、定義を分かりやすく明記してほしいです。設置状況で重みづけ（0pt、0.5pt、1pt）しているのに、有効設置率が設置率より高くなるのはなぜでしょうか。
事務局	雨水浸透施設が設置されていなくても、敷地内に雨水が浸透している場合に0.5ptを加算しているためです。敷地内の降雨が敷地に浸透しているか、敷地外に排水しているかに着目しています。
宮下委員	設置率の母数が、市内全世帯かサンプルのみかは重要です。今後データを活用できるよう、参考資料等に生データを示すとよいです。また、有効設置率と「設置率」という言葉を使用しているため理解しづらいです。「効果」など係数であることが分かる表現にするとよいでしょう。
守田委員長	雨水浸透施設の設置率と不浸透域率を混同しています。雨水浸透施設の設置状況については、設置率（有無のみ）で整理してほしいです。水収支を考えるうえでは、雨水浸透施設があることで不浸透域が浸透域となりますが、浸透域・不浸透域を厳密に整理している自治体はないでしょう。実際の不浸透域率は6割程度であるのに対して、国土地理院の細密数値情報のデータを使うと9割が不浸透域となります。きちんと定義して、ぜひ示してほしいです。
事務局	有効設置率は水収支を計算するために算出しています。基本計画書への示し方を再検討します。
守田委員長	基本計画書には、地下水保全連絡協議会や地下水採取審査委員会の開催目的や構成委員、意思決定に至るプロセスなどを記載するとよいでしょう。
宮下委員	基本計画推進体系図について、例えば事業内容「特産品・観光資源としての活用」に関連する基本方針として「地下水の利活用」のみを取り上げているが、水量や水質が保全されていないと地下水を利活用していくことは難しく、「地下水量の保全」や「地下水質の保全」も関連するのではないのでしょうか。1つの事業にはより多くの要素が絡み合うため、深掘りしてほしいです。
事務局	事業内容と関連する基本方針について再検討します。
守田委員長	事業内容「災害時の地下水・湧水利用」については、市民も関心を寄せているので、充実した記載としてほしいです。
宮下委員	基本理念の「将来（みらい）へつなぐ」には、現状を改善していくのではなく、現状のよい状態を将来に引き継いでいくというイメージがあります。現状の地下水を評価する内容があるとよいでしょう。
守田委員長	同意です。基本計画の理念の前段で、現計画のレビューから理念設定までの意図が分かるような文章としてほしいです。
事務局	基本計画作成にあたり文章を検討します。

(2) 有機フッ素化合物分析について

①事務局説明

事務局

まず、地下水調査についてです。資料3をご覧ください。また、地区の場所については資料6の地図をご参照ください。過去の地下水採取審査委員会でお示したとおり、今年度も市内6か所で、昨年度と同様9月と1月に調査を計画しております。計画している場所については、昨年度の超過地点である西栗原地区の1地点と高い値が出た相模が丘地区の1地点は今年度も同じ地点です。排水路の下流に当たる地点として座間地区の1地点と、市境に近い2地点として座間地区と相武台地区をそれぞれ1地点、調査する計画です。その他として、南栗原地区1地点を選定しています。

次に河川調査についてですが、こちらは経年変化を見るためにも、昨年度と同様に鳩川、目久尻川のそれぞれ下流で1月に調査を行う予定です。

最後に排水路調査についてです。こちらでも昨年度と同様、今年度も2地点で調査を行う予定です。なお採取時期について、排水路の流量が多い時期を選定しようとしたのですが、流量についての明確なデータがありませんでした。そのため、河川の水量と相関すると仮定し、水量が多い時期である8月に調査を行う計画です。

事務局からは以上となりますが、今年度の調査計画についてご意見等ございましたらお願いいたします。

②質疑応答

宮下委員

排水路調査で、流量は河川水量に連動するという仮定は問題ないと考えます。

中島委員

排水路の流量が多い時、少ない時のどちらで有機フッ素化合物が多いのか確認したいところです。周囲の地下水から流入しているのか排水路を流下してきているのかを見極めたいです。

(3) その他

4. 閉会

以 上